飛べ「がまキューブ」

愛知工科大などの人工衛星完成

完成した「がまキューブ」を手にする愛知工科大の西尾正則教授＝28日午後、愛知県蒲郡市で

愛知県蒲郡市の愛知工科大が、市内の中小企業の協力で製作していた超小型人工衛星「がまキューブ」が完成し、西尾正則教授らが二十八日、大学で会見してお披露目した。二十九日に宇宙航空研究開発機構（JAXA）に引き渡す。最終審査を経て、十月二十九日に鹿児島県の種子島から打ち上げられるH2Aロケットに搭載される。衛星は一辺が十センチの立方体で、重さ一・三六キロ。打ち上げ後、高度六百十三キロを周回する。

太陽光パネルで蓄電し、西尾教授らが遠隔操作で百ワットの発光ダイオード（LED）を点滅させる。学生や市民らに肉眼で、周回を確認してもらう。魚眼レンズも備えており、撮影した宇宙空間の映像を地上で見ることができる。約七年間、地球を周回した後、落下して燃え尽きる。

名前の「がまキューブ」は公募で決めた。産学連携を目的に、金属加工の七社が協力。振動や真空状態に耐える試験を重ね、約二年がかりで製作した。西尾教授は「不具合にも素早く対応してもらった。ようやくロケットに載せてもらえるところまできて、ほっとしている」と話した。

2018年8月29日(水)中日新聞掲載 この掲載は中日新聞社の許可を得ています。